

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690600172		
法人名	株式会社 アミタ		
事業所名	グループホーム カノンしもがも		
所在地	京都市左京区下鴨松ノ木町64-50		
自己評価作成日	令和6年3月4日	評価結果市町村受理日	令和6年4月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域とのつながり、日常的な社会参加を意識している。看護小規模多機能居宅介護、訪問看護ステーションが併設していることは強みである。併設していることで、催しやレクリエーションの参加機会が多く、人員面での協力体制も構築されている。下鴨神社の公文所で毎月開催されている「すこやかサロン」は、身近な地域交流の場となっている。近医のかかりつけ医に通院することも、この地域で暮らしてこられた入居者にとっては、自宅で暮らしていた頃の延長として通院同行を継続している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JkyosyoCd=2690600172-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人京都ボランティア協会
所在地	〒600-8127京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル梅湊町83-1「ひと・まち交流館」1階
訪問調査日	令和6年3月23日

グループホームカノンしもがも(1ユニット)は、2016年3月に開設されました。地域の行事も徐々に再開され、下鴨社会福祉協議会主催の「すこやかサロン」毎月開催には、健康体操や脳トレーニングのできる方が参加しています。各種イベントは同系の4事業所合同でおこなうことも多く、腹話術やオペラコンサート、マジックショー、定期的に開催する美容レクリエーションなど、他事業所との交流にもなっています。隣接して訪問看護ステーション、看護小規模多機能型居宅介護があり、看護師、作業療法士の協力で、個別機能訓練への助言、イベントや地域の行事などへの同行、看取りにおいても「看取り介護計画」に助言など多くの協力があります。利用者のことを良く知っている看護師から、見守りや介護への協力を得られることは、事業所の強みであり、利用者の安心、安全にもつながっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「慈悲のこころ」という理念を理解し、職員同士は互いを理解し、職員はご入居者の立場や気持ちを理解し、ご入居者ペースでの寄り添いを心がけている	会社理念「慈悲のこころ」と、行動規範(5つの柱)をもとに、事業所での2023年度目標「理解を深めよう」もう一度入居の方みんなのことは知ろう！！スタッフも自分のことを知ってもらおう！！」を掲げて取り組んでいる。「慈悲のこころ」は「思いやり、相手の立場に立つ、相手を認める」など、職員に説明しており、個人面談(年2回)時などに、実践を聞き取っている。理念や単年度目標はリビングの職員の目の届くところに掲示している。年度目標の振り返りの記録が確認できなかった。	人事異動で職員の交代も多くあった中、作成された事業所目標であり、職員の想いが良く理解できます。ただ、途中での振り返りができていませんでした。自分たちの行動を振り返りながら、目標達成に向かうことも必要なのではないのでしょうか。検討を期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	利用者には町内会への加入を働きかけており、地域の一人として、町内から敬老の日のお祝いを受け、下鴨神社の神事の案内も受けている	町内会には参加している。徐々に地域の行事も再開している。今年のお地蔵盆は職員からのみ参加であった。敬老の日には、町内からクオカードがお祝いとして届いている。下鴨社会福祉協議会主催の「すこやかサロン」毎月開催には、健康体操や脳トレーニングのできる方が参加している。また、令和5年6月には、近隣の保育園児の来所があり、歌や花のプレゼントがあった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	令和6年2月には、認知症サポーター養成講座のお手伝いとして、グループホーム管理者と、事業所内からも2名が参加した		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月に開催 コロナ禍により書面開催の時期も長かったが、集合開催とすることで、意見を出しあうことができています	令和5年5月から対面での会議である。会議メンバーは充実しており、協力医療機関の医師や家族の参加も得ている。利用者や職員の状況、インシデント、アクシデント、苦情、行事、その他の報告がある。会議メンバーとボランティア受入れや言葉遣いに対して、検討や助言がある。家族に会議への案内を出し、議事録を送っている。議事録は玄関に置いていますが、職員に会議内容が周知できていなかった。今後周知を予定している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の議事録は、窓口提出とし、高齢サポート左京北とも上記3にあるように、協力関係が築けている	行政には運営推進会議議事録や、事故報告書は出向き手渡している。管理者は介護支援専門員でもあり、行政とは相談しやすい関係である。高齢サポート左京北「SOSネットワーク会議」に管理者は参加し、地域や事業所情報を得ている。左京区事業者連絡協議会の例会や勉強会、地域ケア会議にも職員が参加し報告がある。また、一般社団法人京都地域密着型サービス事業所協議会に登録しており、今後出席を予定している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯上の観点より、玄関の出入りは暗証番号で管理している エレベーターはフリーで使え、グループホーム入居者が、1階に降りてこられ1階で対応することもある	3か月ごとに「身体拘束・虐待防止委員会」をおこない、内部・外部の研修にも参加している。職員には議事録を回覧してサインを受けている。「虐待の芽チェックリスト」を実施して、不適切ケアの話し合いをしており、勉強会の予定もある。センサーマットの使用や、薬で精神面を安定させている利用者に対しては、ケア会議で検討している。言葉遣いに対する検討では、丁寧であること、馴れ馴れしさが出ないこと、指示、命令にならないように努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修で学ぶ機会を設けている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関しても、定期的な研修で学ぶことができている。成年後見制度を利用している入居者はおられない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書類は事務員が準備を行い、管理者が重要事項内容の説明を担っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時等、家族との関わりの中で意見や要望を聞き取り、必要に応じて運営推進会議で報告している	事業所はコロナ禍でも、面会や家族との外出は自由であった。意見箱への投函はなく、直接要望を言われる家族は多い。顧客満足度調査はおこなっていない。退院調整が上手くいかず、退院日が伸びたケースがあった。検証して、社長、管理者で対応している。家族会は開催していないが、今後ACP(人生会議)や延命についての勉強会を予定しており、勉強会開催時に家族の意向も聞き取る予定である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に意見や提案を聞き、管理者会議でも報告している。反映できない案件があることも事実(休憩室・更衣室の環境)	毎月のスタッフ会議や年2回の面談で、職員の意向を聞き取っている。面談時には個人目標を提出し、研修希望を出している。研修後は伝達研修をしている。スタッフ会議では、リビングの一角をパーテーションで区切り、昼食休憩に使用したい、風呂マットやフライパン、三角コーナー(生ごみ)の更新、丸椅子を増やしてほしいなど要望があり、規程範囲内であれば、管理者決裁で対応している。職員は、各種委員会や係り活動も多く携わっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業管理部が主となっている。希望すれば、いつでも面談が可能		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修、外部研修は組織として、受講手法が構築されており、介護福祉士試験に向けての研修受講にも力を入れている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍によりリモートでの研修が一般化し、集合研修での意見交流の場は減っている。当施設は2階にあり、孤立しやすい環境であり、その中で働く職員のためにも、今以上の交流機会が必要		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者と計画作成担当が主となり、ご家族やご本人の希望や意向を聞き取っている		

京都府 グループホーム カノンしもがも

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	令和5年12月より 入居者担当を設け、ご家族との関係作りを強化している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設入居となる安心感を持ってくださっている。 その期待を裏切らないように、ADL維持に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人のしたいこと、できることが役割や生き甲斐になるような支援を心がけている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との時間を大切にしており、レクの種類によっては、ご家族も参加をして喜ばれている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	併設する看護小規模多機能型居宅を利用していた方は、馴染みの職員、利用者とのつながりが保てている	利用者の交流の大半は家族が中心である。下鴨学区からの利用者が多く、馴染みの美容院に家族と通う方もおられる。1階の看護小規模多機能居宅介護の利用を経て入居された方も多く、顔見知りの関係である。社交ダンスの好きな方は動画を観賞も、歌が好きな方は「すこやかサロン」に通っている。また、各種イベントは同系の4事業所合同でおこなうことも多く、イベントを重ね馴染みの方も増えている。腹話術やオペラコンサート、マジックショー、定期的に開催する美容レクリエーションでは、ハンドケアやネイルケアもある。季刊紙「カノン新聞」年4回発行に利用者、職員の言葉も載せて家族に届けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事席の配置に配慮し、気の合う者で過ごせる環境を提供している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご逝去での利用終了の方が大半であり、関係が途切れることが多い。近隣の方であれば、ご家族と出会うこともある。車椅子を寄付して下った方には、車椅子が活躍していることを報告している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしのなかで、多様なコミュニケーションを図ることで、意向の把握に努め「本人だったら」の視点を大切にしている	アセスメントは、フェイスシート(1~5)で計画見直し時(6か月ごと)に更新している。日常的に聞き取った利用者の意向は、ケア記録か支援ノートに書き、職員間で共有している。利用者の発した言葉での書き込みは少ない。言語でのコミュニケーションが困難になられた方がおられ、表情やジェスチャー、笑顔、そっぽを向く、手を振り払い歩いて行ってしまうなど、行動にも気をつけて観察している。家族とも相談しながら介護に務めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時よりも、日々の暮らしのなかのやり取りで、新たな情報を得ることがあり、共有している			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日その日で変化する入居者個々の暮らし方ができるように努めている			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のケア会議で全入居者のケアを振り返っている。モニタリングは3か月毎 現在、計画作成者がなっているが、次年度からは担当者が実施する方向で検討している	ケアプラン内容はチェックリストで、毎日記録している。毎月のケア会議でも一人ひとりの状態について検討している。モニタリングは「モニタリング一覧表」を用い、3か月ごとにおこなっている。計画の見直しとサービス担当者会議は6か月ごとと必要に合わせおこない、本人、家族の参加がある。課題には利用者の希望で立案されたもののほか、認知症の症状や周辺症状に寄り添う課題もある。	介護計画を展開していくマニュアル(手順書)が作成できていませんでしたが、職員間の移動もありますので、作成されることを期待します。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレットやPCから、日々の記録を行っている。バイタルや食事量、排便コントロールに偏ることなく、生活が見てとれる記録を充実させることが目標であり課題			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の必要性はケア会議で確認を行い、個々のニーズと必要性に応じて、外部サービスを受けている方もいる			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源に恵まれており、入居者との徒歩圏内に、下鴨神社、コンビニ、喫茶店、花屋など多くの店舗がある		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居に合わせかかりつけ医を変更することはない。ご家族とかかりつけ医への通院、近医へ通院同行、訪問診療と個々の希望に合っている	本人と家族の希望で、在宅時のかかりつけ医を継続し家族と受診する方や、事業所の協力医療機関の医師の訪問を受ける方など、個人の選択で決めている。希望者には皮膚科医や歯科医の往診があり、歯科衛生士からも口腔ケアを受けている。他の専門外来受診も家族が職員が付き添い受診している。隣接して訪問看護ステーションがあり、介護士と連携して情報を医師に伝えている。また、作業療法士からも移動や移乗の指導を受けている。訪問看護の看護師は、時間を見つけては利用者の見守りに来ており、外出などの付き添いにも支援がある。いつでも相談でき、24時間オンコール体制である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師との円滑な連携のために、訪問看護ノートを作り活用を初めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後は速やかにサマリー提供を行い、管理者に窓口を一本化している。令和5年11月は、早期退院が叶わなかったと苦情を受けた		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設内看取りも可能 その時期を見計らい、ご家族の気持ちに配慮した対応を行っている。早い段階からACPを考える機会は不足している	「看取りに関する指針」「重度化対応・終末期ケア対応指針」を作成しており、入居時に説明をおこなって同意を得ている。看取り研修は年1回、全職員がWebで受講している。コロナ禍であっても家族の面会や宿泊は可能にしていた。看取り後は、看護師がエンゼルケアをおこない、お気に入りの服に着替えている。お見送りは利用者も一緒におこなっている。家族の心情に配慮し、荷物の搬出を急がせることはない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	シュミレーション研修も行われている。いざ、急変となった場合、慌ててしまう事例があり実践力に課題がある		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施 職員が自家発電、防災備品の取り出しができる体制を設けている	年2回の消防訓練は火災(昼・夜間)想定でおこない、利用者と共に避難口までの避難訓練をしている。消防署立会いの下、消火訓練と発電機の使用訓練もおこなった。水害の時はフロアが2階であるため避難は行わず、1階の看護小規模多機能居宅介護の利用者を受け入れる予定である。訓練の時は近隣にお知らせはしているが、地域住民の参加には至っていない。各種マニュアルやBCP(事業継続計画)の作成はできている。	諸訓練に地域の方の参加が得られていません。まず訓練に、運営推進会議メンバーに参加していただき、課題を見極めたり、地域の方たちの協力を得るための助言を得られることを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄に関すること、体調に関することなど、職員同士の会話の声のボリュームにも配慮している	プライバシーについての研修はWebで全員が受講し、学んだ後は報告書を作成している。羞恥心に配慮して脱衣室には暖簾がかけられ、トイレの扉は閉めるように心掛けている。声掛けについては運営推進会議でも意見交換をしている。利用者の身体状況(認知症、難聴など)を考慮し、親しみを込めながらも馴れ馴れしくならないように、その方に合ったコミュニケーションの取り方を、職員間でも話し合い実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	非言語コミュニケーションも日常的に実践しており、表情や歩き方などの動作に注視している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムを優先し、入居者も自由に活動できている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の整容の他、美容レクの機会も設けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け、片付けが日課になっている方もおり、入居者が参加できる、おやつ作りも企画している	昼食と夕食は近くの関連事業所から温かいものが届き、ご飯はキッチンで炊いている。朝食は食材が届き職員が調理している。月に2回食事レクリエーションの日があり、お弁当やピザなどの宅配を頼んだり、焼きそばやお好み焼きなど、利用者の希望に応じている。誕生日にも好みの食事を提供し、ケーキはスポンジを準備して利用者とともに飾りつけをしている。食事委員が一人ひとりに聞き取る嗜好調査もおこなっている。白玉団子をみんなで丸めたりのお菓子レクリエーションは、主に日曜日に楽しんでいる。今は調理にかかわれる利用者はいないが、お盆拭きや片付けなど、できる事をおこなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月1回 管理栄養士との栄養会議を行っており、個々の摂食状況と栄養状態が共有できている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは習慣化できており、口腔状態は毎月の訪問歯科診療で歯科医に相談し助言を受けることができている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄リズムをくみ取り、トイレに案内している	タブレットで排泄状況を記録し、排泄パターンを把握している。一人ひとりにあった誘導をしている。パットの種類や大きさも、睡眠を優先するかなどカンファレンスで話し合い、その方にあったものを選ぶようにしている。在宅時は尿失禁が多かった方が、入居後のトイレ誘導により失禁が減り、皮膚の状態が良くなった例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お茶以外の飲み物の提供も含め水分を十分に摂ることに勤め、できる運動を個々に合わせて実践している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ゆったりと満足できる入浴を目指し、体調や入浴のタイミングを見計らい、柔軟な調整ができています	入浴は午前中に3名ほど、毎回お湯を替えておこなっている。入浴中は転倒しないように湯船につかるまで見守り、湯温は利用者それぞれの希望に合わせている。バスボードを使用して介助する方もいる。浴槽に浸かれない身体状況の方はシャワーと足浴併用で対応している。入浴後は保湿クリームなどつける方が多い。季節湯や入浴剤は使用していない。同性介助を希望する方は現在いないが、対応は可能である。入浴拒否の方も現在はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や希望に応じて日中の臥床時間を設け、体調管理ができています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医、薬剤師、看護師と各専門職とも連携が取りやすい。服薬漏れの事故を機に、管理方法を変更した。それにより、内服把握が容易になった		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の興味に応じた動画の活用や体操、調理レク、嗜好品の提供ができています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食レクやドライブなど適宜行っている。ご家族とのお出かけも対象者は限定されるが、定期的に行っている	以前ほど日常的な散歩は、おこなえていない現状である。歩行のしっかりした方は気分転換もかねて、職員が備品を取りに行く時やゴミ捨てに、一緒に1階まで行っている。年間行事として葵祭の見学、上御霊神社での茅の輪くぐり、植物園、紅葉やお花見ドライブ、下鴨神社初詣など、訪問看護師の協力も得て出かけ、季節を感じる事ができている。玄関前に移動販売車が来た時は職員が付き添い、おやつなどの購入を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出納管理している預り金があり、事業管理部の事務と協働している。移動スーパーは、買い物という日常活動を提供できている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話が使える方は適宜、携帯電話でご家族と連絡を取り合っている。「電話してくれ」と希望がある場合も、施設の電話を貸し出している。 年4回 お便り発行		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は、清潔を保ち快適に使用できるように整理整頓を行っている	事業所の玄関には季節の花の大きな鉢が置かれ、利用者にもわかるように名前がプレートに書かれている。玄関を入るとエレベーターの横に階段があり、利用者の歩行訓練にもなっている。2階のフロアは明るく、壁には歩行練習の目標値が書かれたテープが貼られ、日常生活の中でリハビリテーションがおこなわれている事が解る。テーブルは凹みのある変形や大小さまざまなものが配置され、それぞれがお気に入りの席で過ごしている。リビングに華やかな飾りつけはないが、廊下の壁に利用者の写真コーナーがあり、たくさん飾っている。洗面台はフロアに2か所あり、大きな鏡がリビングに広がりを感じさせる。フロアの掃除は夜勤職員が担当し、清潔を保っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	職員が利用者の中に入り、互いに穏やかに暮らせるように、心がけている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものの持参の他、清潔と整理整頓、事故を誘発しない環境整備に努めている	居室は自宅で使っていた家具や鏡台など、各自気に入ったものを持参し、自分らしい空間を作っている。以前は多くの物があつた部屋も認知症の進行を考慮し、家具を整理してすっきり暮らしている方もいる。レイアウトなどは、利用者の状態に合わせて変更している。テレビやCDプレイヤーなど洋楽の好きな方は、ソファに座ってゆっくり音楽を聴きながらくつろいでいる。掃除は職員が毎日おこなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日常的なアセスメントにより、お盆や食器拭き、洗濯物たたみなど、出来る家事を職員と共に行っている		